

<学会消息>

“アメリカ経営学会
(The Academy of Management)
1986年度年次大会”

稲 葉 元 吉

筆者は、在外研究期間中における研究活動の一環として、本（1986）年8月、アメリカ経営学会（Academy of Management）に参加する機会を得た。編集部求めに応じ、以下同学会の年次大会の様子を概略報告し、「学会消息」の責めを果たしたいと思う。「年次大会（annual meeting）」と一言でいっても、電話帳サイズの本に編集されたごく一部の報告論文（Best Papers Proceedings）だけでも、細かな字で複写され400頁を軽く越える大部のものとなるくらい大規模な大会であるため、大会全体の状況を紹介することは、とうてい不可能である。その意味で以下の報告も、筆者の見聞した限りのことを中心に、できるだけ全体を公平に要約するよう心がけたにとどまり、客観性が保証されているわけではないことはいままでもない。

ところで現在アメリカが中心となって研究活動が続けられている「経営学（management）」の、年次大会〔しかも今年はこちらアメリカ経営学会50周年に当たっている〕に関する報告は、少なくとも次の2点でわれわれにある重要な示唆を与えるものと思われる。

(1) アメリカの経営学の大きな動向を現時点でみると、どのようなテーマが関心の的になっているか。

(2) アメリカ経営学会の年次大会の会場ではどのような運営が行われているか。

多忙なさなかあえて執筆を受諾したゆえんである。

さて「近代経営が生誕して100年（100 Years of Modern Management）」、「経営学会が発足して50年（50 Anniversary of the Academy of Management）」というきわめて記念すべき年に当たった今年の年次大会の行事プログラムは、8月11日～13日の予備大会プログラムと、8月13～16日の本大会プログラムの2つに分けられるが、前者は若手研究者（博士課程の大学院生やそれを修了して間もない教官達）に研究発表の機会を与え、かつそれを契機にかれらに就職の機会を与えるべく設けられたもので、若手研究者には真剣勝負

の場であるが、本大会そのものではないので筆者はこれには参加していない。したがって8月13日の本大会、とくに「近代経営100周年」「経営学会50周年」を祝う特別記念講演以降が、具体的な報告内容となる。

さて筆者は現在、アメリカ東海岸マサチューセッツ州ボストン郊外のアーリントンで生活している関係上、まずはボストン出発時から時間経過に従って話を進めてゆきたい。8月13日午前9時00分ボストンのLogan 空港を出発、シカゴのO'Hare 空港に到着したのは同10時20分であった。これは時間的距離的に一見いくぶん近い感じがするが、しかし出発時がボストン時間で到着時がシカゴ時間であるので、実際は2時間20分ということになる。ボストンからシカゴに行くのに時差調整を要するのはアメリカの広さの一端を示して興味深い。当日シカゴは薄曇りで気温は約60°K、ボストンの70°Kより大分涼しい感じであった。空港から市の中心まで約30分タクシーに乗り、宿泊先のHyatt Regency Chicago に到着。きわめて大規模なホテルで、大会会場もちょうどここであった。到着後ただちに学会参加登録。午後1時から、大会記念講演がスタート。今年は先にも述べたごとく、The Academy of Management の50周年ということで、講師はClaremont Graduate School の P. F. Drucker 教授と、Carnegie-Mellon University の H. A. Simon 教授であった。Drucker 教授は、“Management in Modern Times” という演題で、現在の社会的状況下における「制度としての企業」のありかたを論じ、また Simon 教授は、“Behaving Like a Manager” という演題で、一見直観的にみえる経営首脳部の思考や行動も論理的に説明しうることを主張する内容であった。聴衆の態度は、Simon 教授の方に圧倒的に活発な反応を示し、講演終了後も同教授の周りの人垣きが20分以上も解けなかったことが印象的であった。この講演のあと、同じ会場では「100周年」「50周年」にいたる経過を描いた映画が上映されたが、筆者自身は、Simon 教授と会った後ホテルへのチェック・イン・タイムの時間が切迫していたため、映画をみる機会ももちえなかった。

8月14日は早朝8時00分から各専門領域ごとの研究発表が、多くの会場で一斉に開始された。そこまでまずアメリカの経営学会が、経営（Management）学を中心部分をどのように大きく分類しているかをみてお

くことにしたい。この分類が、アメリカ経営学会の現時点での主要な研究動向を、概略示していると考えられるからである。各専門部会が、この分類にしたがってつくられていることはいう迄もない。専門領域ごとの部会は19に分かれ、それを列挙すれば以下の通りである。カッコ内は略号を示す。

1. Business Policy and Planning (BPP)
2. Careers (C)
3. Entrepreneurship (E)
4. Health Care Administration (HCA)
5. International Management (IM)
6. Management Education and Development (MED)
7. Management History (MH)
8. Managerial Consultation (MC)
9. Organization and Management Theory (OMT)
10. Organization Development (OD)
11. Organization Behavior (OB)
12. Organization Communication (OC)
13. Personnel/Human Resource Management (PHR)
14. Production/Operations Management (POM)
15. Public Sector (PS)
16. Research Method (RM)
17. Social Issues in Management (SIM)
18. R & D/Technology/Innovation (RD)
19. Women in Management (WIM)

これら19の部会のそれぞれが、また平均3つの発表会場をもっているため、ホテルが大会のために準備しなければならない会場数は、どんなに少なく見積っても約60室は必要となる。参加者はアメリカの全土はもちろん外国からも相当多数の学者が参加するため、これもまた大がかりなものとなる。因みにプログラムに掲載されている研究発表者の概数は、索引によれば、若手研究者コメンテータから特別招待講演者まで含め、1,800名以上に及んでいる。したがって研究発表をしない者を含めた大会参加者の総数は、この何倍にもなることはいう迄もない。大会のプログラムだけでも電話帳サイズに細かな字で印刷されたものが、85ページにわたるといふ膨大なものである。

それぞれの発表会場における通常の場合の報告時間

は、1人15分が限度のようである。したがって報告内容は研究の目的、調査方法、研究成果およびそれがもつ意義を概略説明して終わりとなる。発表形式は、1人1人別々に順次報告してゆく普通の方法もあれば、テーマを少し大きく纏めてシンポジウム形式をとる場合もある。さらには重要な争点を、通常の形式をふまえずしかも十分な時間をかけて討議する、特別なかたちのも (例えば conversation hour) もある。普通の方法シンポジウム形式いずれをとるにしても、commenter ないし discussants のコメントがあり、それに一般参加者との質疑応答があるため、発表者は時間の管理にかなり気を使わなければならないようである。しかし各報告を連続して聴いている者にとっては、20分程度の時間は、飽きがない回転速度という意味でまことに適切であるように思われた。

個人的には精力的にかなりの報告をきいてもらったが、そのうちの主なものを少しだけ挙げ、具体的な雰囲気为例示してみる事にしよう。

8月14日午前 [Entrepreneurship] Time Orientation and Organization Development

同日・午後 Organization Development Distinguished Address (Prof. W. R. Nord)

Conversation Hour (Prof. E. H. Schein)

8月15日午前 [International Management] Lessons from Japanese Management

同日・午後 Symposium: Some Personal Theories of Organization Development

[Research and Development] Developing Innovations: Comparison and Analysis

こちらの研究者に「受け」が良いのは、かれらの考え方に合致した単純明解な報告であるため、この点に不慣れであると不利なことは否定できない。また理論研究ももちろんあるが、しかし一般的には抽象的な報告に対しては無関心な反応を示すことが多い。いずれにしても報告者は一定の時間内でいかに明瞭に論旨を発表するか、その presentation のしかたに注意を払わなければならないことは確かである。

“Symposium: Time Orientation and Organization Development” の会場では、このシンポジウムのテーマにどの程度の意義を認めるか、報告者1人1人の発表内容をどう評価するか、ディスカッサントのコメントを適切と思うか、チェアマンの司会はどうかであったか、会場の熱気はどうか等について、参会者

全員に無記名10段階法で評価するよう要請された時には、日本でそのようなことが行われていないだけに、いささか意外な感じがした。このことで、たとえ無記名とはいえ、アメリカがいかに聴衆の評価で物事の是非を判断しようとする国であるかよくわかる。良しにつけ悪しきにつけ民主的な国ではある。

前述のごとく大会では Conversation hour という特別の session も設けられていて、そこでそのときどきの学界の hot topics が議論されるが、私が出席したそれは、MIT で世話になっている Schein 教授のものであった。彼は昨年“Organization Culture and Leadership”というきわめて優れた業績を発表したが、この研究で彼が試みた方法論(これを clinical approach と呼ぶ)が、学界で議論をよんだわけである。時間を十分に使い、そのテーマに真に関心をもった者が互いに納得のいくまで検討しあうこのようなやり方は、おそらくこれから日本でもこころみられるようになるものと思われる。Schein 教授の人柄もあろうが、誠に学会らしい充実した内容の discussion であった。

8月15日の正午に Presidential Luncheon が、会場になっている Hyatt Regency Chicago の ball-room で開かれた。通常は幾つにも分けて使われている仕切りが取払われた巨大なホールでの Luncheon は、アルコール類こそだされなかったものの、なかなかのお祭り気分。F. Luthans (University of Nebraska at Lincoln) の presidential address も“Fifty Years Later: What Do We Really know about Manager and Managing?”と題せられた軽妙かつ真面目なものであった。

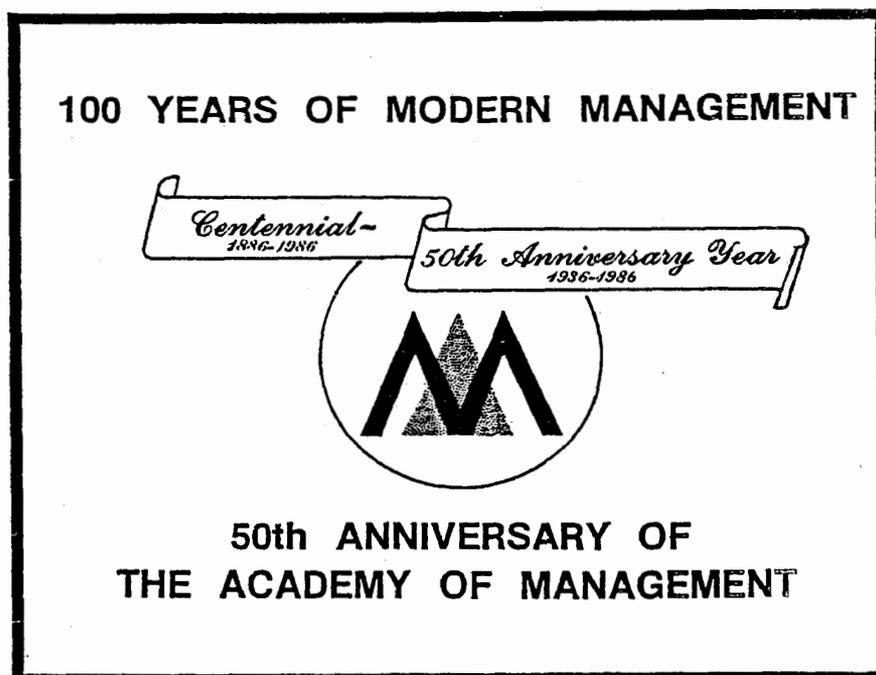
年次大会の最も重要な内容は、いうまでもなく研究成果の発表と研究者の相互交流にあるが、この後者の点について一言だけ論及しておく、各会場の報告が終了する午後6時30分から1時間30分、連日 Social Hour という時間が設けられていて、この時間にチーズを肴にワインを飲みながらくつろいだかたちで、互

いに交歓できるようになっている。また研究者の就職の便宜をはかる Placement Service も、大会期間中にわたり提供されている。

今回の年次大会が開かれたシカゴは、広大な平野につくられた大都会である。広大なだけにニューヨークのマンハッタンに較べ、力が分散する感じではあるが、それでもシカゴのもつ一種の迫力は、例えば建築物のなかに具体的にみることができる。学会の参加に時間が費され夜景しかみることはできなかったが、Hancock Building からの眺めは途方もない広がりを感じさせた。8月16日(土)は、午前中でほぼ主要報告は終了したので夜半近いボストン行きのフライトができるまで、会場となったホテルの近くを見物することにし、Art Institute of Chicago に足を運んだ。ちょうど折良く、奈良の東大寺展も開催されていた。日本ではなかなか見る機会もないからと思ひ展示場をまわったが、国宝指定のものが数多く出品されてシカゴに来てあらためて東大寺のもつ歴史的意義を再認識することができた。美術館を辞したあと、グラント公園沿いをミシガン湖畔のヨット・ハーバーまで散策したが、もやがかかっていたせいか、ミシガン湖は大きすぎて「海」同様であった。それは湖といっても、周囲の樹々の緑と紅葉をうつし、また庭つづきに水辺につながっているバルコニーつきの白い家、といったボストン郊外のあの小さな湖のイメージとはかけ離れたものであった。O'Hare 空港にかけつける少し前に、「シカゴに別れを」ということで、きたないところではあるがちょっとした有名な、ジャズを聴きながらの飲み屋に行ったが、この時の演奏の素晴らしさと迫力は大したもの、アメリカ南部にまで行かずにシカゴでその雰囲気を感じたのも思わぬヒロイモノであった。

[いなば もときち 横浜国立大学経営学部教授]

**ACADEMY OF MANAGEMENT
1986 PROGRAM**



**HYATT REGENCY—CHICAGO
PROGRAM: AUGUST 13-16, 1986
PRECONVENTION PROGRAM: AUGUST 11-13, 1986**



WEDNESDAY, AUGUST 13

ALL CONVENTION ACTIVITIES

9:00 am-6:00 pm Registration
Wacker Exhibition Secretary-Treasurer:
Hall Walter B. Newsom, Mississippi State University
Exhibition Level
East Tower

9:00 am-6:00 pm Membership
Wacker Exhibition Director of Membership:
Hall Joseph P. Yaney, Texas Tech University
Exhibition Level
East Tower

9:00 am-5:00 pm Placement
Wacker Exhibition Director of Placement:
Hall James B. Townsend, Kansas State University
Exhibition Level
East Tower

9:00 am-5:00 pm Exhibitors
Wacker Exhibition Publisher Relations/Exhibits Coordinator:
Hall Carl R. Swanson, North Texas State University
Exhibition Level
East Tower

1:00-6:15 pm All Academy Centennial/Anniversary Symposium
Grand Ballroom (See Program Section for Details)
E&F
Ballroom Level
East Tower

6:30-8:00 pm Social Hour (cash bar)
Grand Ballroom (Academy members and guests)
A,B,C&D North
Ballroom Level
East Tower

WEDNESDAY, AUGUST 13

ACADEMY COMMITTEE MEETINGS/RECEPTIONS

8:30-12:00 pm Board of Governors Meeting
Ogden Presiding:
3rd Floor Fred Luthans, University of Nebraska at Lincoln
West Tower

11:00-12:00 pm Centennial/Anniversary Committee Meeting
Skyway 261 Presiding:
Skyway Level W. Jack Duncan, University of Alabama in Birmingham
East Tower

4:00-5:00 pm Executive Committees of Professional Divisions and Interest Groups

- Business Policy and Planning - Skyway 261 (Skyway Level, East Tower)
- Careers - Stetson F (Parking Level, West Tower)
- Entrepreneurship Interest Group - Skyway 273 (Skyway Level, East Tower) (and 10:30-12:00 pm, Skyway 273)
- Health Care Administration - Skyway 264 (Skyway Level, East Tower)
- International Management - Buckingham (Concourse Level, West Tower)
- Management Education & Development - Picasso (Concourse Level, West Tower)
- Management History - Hong Kong (Ballroom Level, West Tower)
- Managerial Consultation - Skyway 265 (Skyway Level, East Tower)
- Organization and Management Theory - Columbus A&B (Ballroom Level, East Tower)

- Organization Development - Gold Coast (Concourse Level, West Tower)
- Organizational Behavior - Columbus C&D (Ballroom Level, East Tower)
- Organizational Communication - Columbian (Concourse Level, West Tower)
- Personnel/Human Resources - Skyway 268 (Skyway Level, East Tower)
- Production/Operations Management - Haymarket (Concourse Level, West Tower)
- Public Sector - McCormick (3rd Floor, West Tower)
- R&D/Technology/Innovation Interest Group - Du Sable (3rd Floor, West Tower)
- Research Methods Interest Group - Field (3rd Floor, West Tower)
- Social Issues in Management - Water Tower (Concourse Level, West Tower)
- Women in Management - Skyway 269 (Skyway Level, East Tower)

4:00-5:00 pm San Francisco Ballroom Level West Tower
Presiding:
Rose E. Knotts, North Texas State University

5:00-6:00 pm Skyway 261 Skyway Level East Tower
Presiding:
Richard M. Steers, University of Oregon

5:00-6:00 pm Skyway 264
Presiding:
Richard M. Steers, University of Oregon

THURSDAY

- Philip Kotler, Northwestern University
- 3:15-5:15 pm**
Columbus H
Ballroom Level
East Tower
- Symposium: Changing Nature of the Executive: Implications for Career Planning and Consulting** Jointly Sponsored with Careers Division
- Chairpersons:
Michael J. Driver, University of Southern California
Jeffrey A. Sonnenfeld, Harvard University
- Constraints and Changes at the Top*
Jay W. Lorsch, Harvard University
- Senior Executives and Role Choice*
Larry E. Greiner, University of Southern California
- Executive Style*
Michael J. Driver, University of Southern California
- Managing the CEO's Career: Denying Retirement*
Jeffrey A. Sonnenfeld, Harvard University
- Changing Role of Human Resource Function in Executive Succession*
Barry D. Leskin, University of Southern California
- Discussant:
Norman J. Ryker, Chief Executive Officer, Pneumo-Avex Corporation

ORGANIZATION AND MANAGEMENT THEORY

- 8:00-8:15 am**
Columbus A&B
Ballroom Level
East Tower
- Welcome**
- Division Chairperson:
Gerald R. Salancik, Carnegie-Mellon University
- Program Chairperson:
Richard L. Daft, Texas A&M University
- 8:15-10:00 am**
Columbus A&B
Ballroom Level
East Tower
- Symposium: Ecological and Institutional Determinants of Organizational Labor Markets**
- Chairpersons:
Douglas R. Wholey, University of Arizona
Jack W. Brittain, University of Texas at Austin
- Ecological Determinants of Organizational Labor Market Structures*
Douglas R. Wholey, University of Arizona
Jack W. Brittain, University of Texas at Austin
- The Career Dynamics of Entrepreneurship: An Empirical Analysis of Self-Employment in the Federal Republic of Germany*
Elaine M. Mosakowski, University of California, Berkeley
Glenn R. Carroll, University of California, Berkeley
- Cultural Differences and the Structure of Organizational Labor Markets: A Comparison of the United States and Japan*
James R. Lincoln, University of Arizona
- Discussant:
Shelby Stewman, Carnegie-Mellon University
- 8:15-9:55 am**
Gold Coast
Concourse Level
West Tower
- Symposium: Competing Perspectives of Organizational Environments and Strategy: An Inter-Paradigmatic Discussion**
- Chairperson:
Oguz N. Baburoglu, West Chester University
- Corporate Strategy as Evolutionary Growth*
W. Graham Astley, University of Pennsylvania
- Conceptualization of a Fifth Level in the Emery-Trist Framework of Organizational Environments and Its Implication to Strategy*

- Oguz N. Baburoglu, West Chester University
- Ambiguity, Equivocality, and Uncertainty: The Theoretical Constructs and Their Role in "Constrained Niches" versus "Enacted Environment" Debate*
Huseyin Leblebici, University of Illinois
- Discussants:
Fred E. Emery, Australian National University
Gerald R. Salancik, Carnegie-Mellon University
Douglas R. Wholey, University of Arizona
- 8:15-10:00 am**
Regency B
Ballroom Level
West Tower
- Symposium: The Context, Process, and Effectiveness of Strategic Organizational Decisions** Jointly Sponsored with Business Policy and Planning Division
- Chairperson:
James W. Dean, Jr., Pennsylvania State University
- The Labeling of Strategic Issues as Threats and Opportunities: Implications for Process and Action*
Jane E. Dutton, New York University
Susan E. Jackson, University of Michigan
- Overview of the Penn State Project on Strategic Organizational Decision Making*
James W. Dean, Jr., Pennsylvania State University
Stephan J. Motowidlo, Pennsylvania State University
Mark Sharfman, Pennsylvania State University
- A Longitudinal Study of the Comprehensiveness of Strategic Decision Processes*
James W. Frederickson, Columbia University
- Strategic Decision Making and Top Management Teams*
Kathleen M. Eisenhardt, Stanford University
L. Jay Bourgeois III, Stanford University
- 8:30-10:00 am**
Burnham
3rd Floor
West Tower
- Executive Succession: Causes and Consequences**
- Chairperson:
Cecilia M. Falbe, State University of New York at Albany
- Why He Left: An Explanation for the Succession Effect*
Stewart D. Friedman, University of Pennsylvania
Harbir Singh, University of Pennsylvania
- The Political Context and Consequences of Administrative Succession*
M. Ann Welsh, University of Cincinnati
Gordon E. Dehler, University of Cincinnati
- Executive Succession: The Changing Characteristics of Top Management Teams*
Beverly Virany, Columbia University
Michael L. Tushman, Columbia University
- 10:15-11:45 am**
Burnham
3rd Floor
West Tower
- Organizational Creation and Survival: Ecological Determinants**
- Chairperson:
William G. Egelhoff, New York University
- Organizational Species' Dependence on Their Environments for Resources*
Donald W. Beard, University of Washington
Gregory G. Dess, Florida State University
Alan D. Bauerschmidt, University of South Carolina
- Strategies and Outcomes of Organization Creation: Patterns in Performance*
Elaine F. Romanelli, Duke University